

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北海道)	◎	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・全国旅行支援が始まり、客単価、稼働率共に伸びている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・10月に入り、旅行客の宿泊や来街者が増えている。区域内の2軒のホテルは満室に近い状態の日が頻発しており、売上がアップしている。区域内の百貨店では衣料品などで地域住民による売上がアップしている。これらのことから、全体的な景気は僅かながら上向いている。
	○	商店街（代表者）	販売量の動き	・当地では人の通行量が増えていることで、販売量が順調に回復しており、売上もコロナ禍前の8割程度まで回復している。居酒屋など、1次会で使われるような飲食店も予約しづらくなるほどまで回復している。ただ、2次会以降で使われるような店は閑散としており、新型コロナウイルスの感染対策によって根付いた終電までに帰る癖が抜けきらない状況が続いている。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症発生前と比べると、売上は72.9%まで回復してきた。これは行動制限がなくなり、10月11日から全国旅行支援が開始されたことで人出がぐっと増えたことが影響している。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・全国旅行支援のクーポン利用が伸びている。平日が3,000円分、土日が1,000円分ということもあって、平日にクーポンを利用する人が多い。例年よりも平日の客が増えていることが、Go To Travelキャンペーンの時とは違う点となっている。
	○	百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・来客数は微増で推移しているものの、客単価が上昇していることで、全体の売上を押し上げている。
	○	百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・直近3か月の動向をみると、買上客数及び販売量が前年比110%と伸びている一方で、客単価は物価高の影響もあって前年比95%と落ち込んでいた。しかしながら、10月になり、気温が低下していること、旅行などの外出が増えていることから、コートやブーツを中心としたファッションゾーンの需要が高まっており、客単価も前年比110%と好調に推移している。
	○	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・行動制限の緩和や全国旅行支援の効果により、観光客が明らかに増えており、人の動きが活発になっている。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少していることで、観光業の動きが良くなっている。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・全国旅行支援が始まったことで、景気はやや良くなっている。
	○	コンビニ（店長）	単価の動き	・値上げの影響で客単価が上がっており、景気もやや良くなっている。
	○	衣料品専門店（エリア担当）	販売量の動き	・全般的な物価高騰がみられるなか、水道光熱費も高騰している。その影響で、衣料品においては暖か商品の動きが前年よりも早い時期から動き始めている。今後も暖房費などを節約する状況が続くとみられるため、暖か商品は好調に推移する。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車の販売動向が良いこともあって、大量の受注残がある。景気が悪いのであれば、新型車といえども多くの販売にはつながらないため、景気はやや良くなっている。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の生産状況や在庫状況が相変わらず低調であり、売上は計画の7割程度にとどまっているものの、受注状況はやや良くなっている。現時点で3か月分以上の受注残を抱えている。

○	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・久しぶりに夕食の予約が入ってくるようになったことで、コロナ禍前の60%超えが見込まれるなど、景気はやや良い。昼食の来客数も順調に増えている。客単価が上がらないなか、食材の値上げなどで利益が減っているため、売上増は有り難い動きである。道内全体でみても、低価格店は元より、高級店の予約も増えているようで、久しぶりに活気が戻りつつある。ただ、10月下旬になり、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えていることで、ランチがやや芳しくない状況となっている。
○	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・物価上昇による消費抑制傾向が強くなっていたが、10月に全国旅行支援が始まったことで、国内旅行需要が急速に拡大している。また、秋季は北海道の修学旅行時期であり、新型コロナウイルス感染症発生前のにぎわいが空港に戻りつつある。
○	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・全国旅行支援の効果で人の動きが増えている。
○	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・全国旅行支援が始まったこと、人流抑制がないことから、人が動き始めている。
○	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・全国旅行支援が始まる前は旅行の申込み控えがみられていたが、全国旅行支援の開始が報道されるようになったことで、来客数が増加し、予約の相談問合せも著しく増加している。新型コロナウイルス感染症の第7波が本格的になった3か月前と比べると、来客数、販売量共、上向きとなっている。
○	タクシー運転手	販売量の動き	・ウィズコロナ政策により人流が戻りつつあり、収入も安定化している。ただ、夜間の人出が戻っておらず、コロナ禍前ほどの収入とはなっていない。
○	観光名所(従業員)	お客様の様子	・全国旅行支援が始まったことで、当地は連日、国内観光客でにぎわっている。クーポンの利用も好調である。アジア圏からの外国人観光客も、現時点では個人客のみだが、徐々に目立つようになっている。新型コロナウイルスへの感染対策を行いながらではあるが、日常が戻りつつあることを実感している。
○	美容室(経営者)	来客数の動き	・最近になって、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加傾向にあるが、来客数は落ち込んでいない。3か月前とは明らかに雰囲気が変わっており、以前のような悪い雰囲気は余り感じられない。
□	商店街(代表者)	来客数の動き	・来客数が少しずつ上向いているが、新型コロナウイルス感染症発生前の水準にはまだまだ至っていない。
□	商店街(代表者)	お客様の様子	・全国旅行支援のクーポンを利用する客が目立っている。
□	スーパー(店長)	それ以外	・新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢など、景気を不安定にさせるような事象が長期化していることから、景気は低空飛行状態のまま横ばいで推移している。
□	スーパー(店長)	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症発生前の水準とは比較にならないものの、衣料品は前年から2けた近い伸びをみせている。一方で、重寝具などの高額商材は動きが鈍く、全体では前年並みでの推移となっている。客の生活防衛意識も高く、学校関連の商材ややむを得ず外出で使うような商材以外への支出は抑え気味である。
□	コンビニ(エリア担当)	お客様の様子	・現状は商材の値上げもあり、前年を上回る売上となっている。幸いにも、来客数は前年を上回っているが、今後、生活防衛のため、し好品の買い控えが起こることを心配している。特に年末に向けて、クリスマスや年始の消費が鈍ることが心配である。
□	家電量販店(店員)	来客数の動き	・10月後半はプレミアム付商品券の発行で盛り上がりを見せた。売上も前年並みとまずまずであった。
□	乗用車販売店(経営者)	販売量の動き	・継続している半導体の長納期問題がまだ解決されず、様々な課題が複合的に絡み合っていることで、消費マインドに悪い影響を与えている。消費マインドは低いまま、横ばいで推移している。

□	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・納期が長い分、新車登録が進んでいないが、先を見据えて客に話をしているため、受注量自体は大きく伸びている。売上的には厳しいが、車が届き次第、新車登録を行うという流れができており、当社に関してはそこまで悪い状況とはなっていない。
□	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・メーカーの生産台数が回復していないことから、良くなる見通しが立たない。現状を維持したまま横ばいで推移している。
□	自動車備品販売店 (店長)	それ以外	・新型コロナウイルスの感染対策が緩和されたことで、人の流れが増加し、消費も増えていたが、円安や物価高、光熱費の上昇に伴って買い控えが増えそうだ。
□	その他専門店 [医薬品] (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症に対する一時の安心感が薄れ、第8波への不安が増していることから、来客数の回復状況がやや鈍化している。抗原検査キットもかなり動き出している。
□	その他専門店 [ガソリンスタンド] (経営者)	単価の動き	・石油製品価格が高止まりしており、消費者の節約志向が強まっている。
□	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・来客数が大きく伸びることも、落ち込むこともなく推移している。
□	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・全国旅行支援が開始されたものの、既に当地はオフシーズンとなっており、集客には余り寄与していない。また、外国人観光客も、入国制限緩和により若干戻っているが、マスク着用などの社会的な対応が変わらないため、新型コロナウイルス感染症発生前のような集客には至っていない。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少に伴って来客数も増えると予想していたが、結果的に変化はみられなかった。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・全国旅行支援のお陰で人の流れが回復しつつあり、タクシーの売上も3か月前と比べて伸びている。この動きが今後も続いてほしいと願っている。
□	美容室 (経営者)	販売量の動き	・10月の売上は、前月、前年同月より僅かに良いが、この3か月でみると、5%ほど減っている。
□	美容室 (経営者)	お客様の様子	・物価上昇に伴って客の使う金額が減っている。
□	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・現在、分譲マンションのモデルルームに来訪する客は比較的金に余裕がある人が多く、購入意欲も高いことから、景気は変わっていない。
▲	一般小売店 [酒] (経営者)	販売量の動き	・当地における新型コロナウイルスの新規感染者数が以前と比べて増えていることもあり、人流に影響が出ている。また、前月はビールなどの値上げを控えて駆け込み需要がみられたため、10月の売上に影響が出ている。
▲	百貨店 (売場主任)	販売量の動き	・物価高の影響で食品、特に生鮮関連の販売量が落ち込んでいる。
▲	百貨店 (営業販促担当)	それ以外	・物産催事、キャラクター催事などの期間限定企画における動員、販売は好調に推移しているが、既存の衣料品、食品関連の動きが10月以降鈍化している。値上げの影響で客の財布のひもが固くなっている。
▲	スーパー (企画担当)	販売量の動き	・商品価格が一段と値上がりしていることで、販売量が減少している。必要な物以外は買わない傾向が強く表れている。特売品は売れているが、定番商品の販売量が減少している。
▲	スーパー (役員)	お客様の様子	・あらゆる物が値上がりしていることで、客の節約志向がますます強くなっている。
▲	スーパー (従業員)	来客数の動き	・10月に当社の主力商品である食料品を含めた様々な商材で値上げがあったことで、客単価は微増したものの、来客数及び買上点数の減少が顕著にみられる。この傾向はしばらく続くことになる。
▲	衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・景気は若干の上向き傾向にあったが、来店予約をしていた客が家族の体調不良でキャンセルするケースが増えており、困っている。衣替えの動きがストップし、客足が鈍っている上、客が価格に対してシビアな反応を示すようになってきている。

	▲	その他専門店 [造花] (店 長)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が徐々に増加しているなかでも、行動制限がないため、何かしらの行動を起こす予定の客が増えているものの、不安定な状況を考慮して、仕入れを抑える傾向がみられる。
	▲	高級レストラン (スタッフ)	それ以外	・新型コロナウイルスの感染状況が収まりつつあるが、市場の変化に加えて、様々な物の値上げが収まらないことから、利益の減少に歯止めが掛からない状態が続いている。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・10月のタクシーの売上は前年並みであったが、新型コロナウイルス感染症発生前の2019年比ではマイナス30%と大きく減少している。タクシーの稼働状況は新型コロナウイルス感染症発生前の水準に戻ってきたが、3年前と比べて乗務員が30%減っているため、乗務員不足で稼働するタクシーが減っている。
	▲	通信会社 (企画 担当)	来客数の動き	・毎年秋に発売される人気の通信端末に対する引き合いが、予約の時点で前年を大きく下回っている。また、競合他社への流出も止まらないことから、景気はやや悪くなっている。
	▲	通信会社 (エリア 担当)	販売量の動き	・業界特有の問題があり、景気はやや悪くなっている。
	▲	その他サービスの 動向を把握できる者 [フェリー] (従業員)	来客数の動き	・コロナ禍による影響が引き続きみられるなか、観光閑散期に向かっているため、例年どおり、春までは輸送量の増加を望めない。
	▲	住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・円安、資材高の影響で物価が上がっており、それに伴って住宅着工数も減っている。
	×	スナック (経営 者)	来客数の動き	・北海道においても景気が少しは良くなる傾向がうかがえたが、最近になって、再び新型コロナウイルスの新規感染者数が増えていることで、来客数が激減している。今年一杯は厳しい状態が続くとみられる。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症発生前と運送収入を比較すると、8割を超えることのできない状況が続いている。行動制限の解除、全国旅行支援の開始などの好材料がそろっているにもかかわらず厳しい状況が続いている。
	×	美容室 (経営 者)	お客様の様子	・客の来店間隔が長くなっている。客との会話でも節約などのワードが多く聞かれる。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	*	*	*
	○	建設業 (役員)	受注量や販売量の 動き	・工事の追い込み期に入り、完工高は順調に積み上がりつつある。年度またぎの建築案件の新規受注もできている。新型コロナウイルス感染症の流行が常態化したなかで、様々な制限の緩和が進んでいることで、業務や受発注における特段のマイナス要素はみられなくなっている。
	○	輸送業 (営業担 当)	受注量や販売量の 動き	・10月から11月にかけての各種商品価格の値上げに対応するため、飲料関連を先送りする動きがみられた。ただ、新型コロナウイルス感染症に対する様々な制限が緩和されている一方で、思うような消費活動につながっていない状況もみられる。値上げ以降の買い控えも不安要因である。北海道産生乳については、下期の減産が計画されており、今後の本州向け物量に影響が出ることが心配される。
	○	司法書士	受注量や販売量の 動き	・建設業などの業績によって受注量が増減するため、資材高騰の影響が大きく出るとみていたが、意外にも少しずつ上向いている。これから冬期間に入るという季節要因もあって、今後に向けての不確定要素は多いが、今のところ低空飛行ではあるものの、景気は少しずつ上向いている。
	○	その他サービス 業 [建設機械レ ンタル] (総務 担当)	受注量や販売量の 動き	・引き続き前年比5%程度の伸びで推移している。年内はこうした状況が続くと予測される。
	□	農林水産業 (経 営者)	受注量や販売量の 動き	・果物の収穫状況は良いものの、原材料費の高騰が続いていることから、景気は変わっていない。また、野菜の価格が下がらないため、当社製品の販売量は横ばいが続いている。

	□	輸送業（従業員）	取引先の様子	・取引先を訪問するなか、特に忙しい雰囲気もなく、前年並みで推移している取引先が多くみられるため、景気は変わっていない。
	□	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・当社にとって、円安やウクライナ情勢などの影響が今のところ少ないことから、景気も変わっていない。
	□	金融業（従業員）	取引先の様子	・諸物価上昇の悪影響が幅広い業種で見られる一方、全国旅行支援や外国人観光客の入国制限緩和などから、観光関連の回復が進むなど、業種による明暗がはっきりしている。総じてみれば、道内景気は3か月前と変わらない状況にある。
	□	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・民間工事、公共工事共に建設工事の着工予定がおおむねみえてきた。
	▲	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客の購買動向が慎重になっている。
	▲	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・前年と比べて業務量が半減している。また、大型案件が少なく、小型案件が多くなっていることから、受注量の落ち込み以上に受注金額が減っている。
	▲	司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症に対する行動制限が緩和されたことで、景気も回復すると見込んでいたが、円安の進行に伴う諸物価の上昇がマイナス要因となっている。生活にゆとりが感じられず、先行きに不安があることから、住宅の新築など的高額な買物にちゅうちょする傾向がみられるようになっている。
	▲	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・継続案件の契約が遅れたり、発注額が減額になったり、取引先が様子見している状況がうかがえる。
	▲	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・先行きの販売予測が少しずつ低下している。納期遅れや製品欠品などの影響は余り感じられないことから、エンドユーザーの購入意欲が低下しているとみられる。
	×	食料品製造業（従業員）	それ以外	・第1弾の値上げを何とか実施できたことで、売上は前年よりも増加しているが、それ以上に、原材料価格、人件費、電力料金、燃料価格、運賃などが高騰しており、利益の出づらいつつ構造となっている。
雇用関連	◎	—	—	—
(北海道)	○	求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・全国旅行支援の後押しもあって、国内観光客が戻っており、ホテル、飲食、レンタカーなどの観光関連業種の求人数も増加している。ただ、人材採用が順調に進まないこと、飲食店に客が戻ってこないことから、様子見しながらの採用活動になっている。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・飲食、観光、清掃業界で好調との声をよく聞く。ただ、主力の建設業界の低調が続いていることは懸念材料である。
	○	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・9月の新規求職者数が前年から12.0%減少している一方、新規求人数は前年から5.3%増加している。今後への懸念材料はあるものの、業況堅調な企業を中心に求人が出されている状況にある。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における9月の有効求人倍率は1.00倍であり、3か月前との比較では0.10ポイント上回った。
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・ここ数か月と同様に、求人数は堅調に推移している。特に最近は管理職の求人が目立っていることから、営業の拡大に合わせてチームをまとめる管理職の需要が高まっている。一方、求職者数については、ここ数か月、業界全体的に減少しており、12月のボーナスを前に、就職活動を手控えている様子がうかがえる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・飲食及びサービス業において、求人広告に対する応募者の減少が著しい。また、ホテルでは、現有スタッフでやりくりできるように一部の部屋を休ませているとの話を聞いている。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・物流業界や小売店など、3か月前よりも求人数が増えている業界もみられるが、全体的な傾向は大きく変わっていない。

□	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・例年10月1日に新卒者を対象とした内定式が一斉に開催され、同時に多くの内定辞退者が発生するが、今年は内定辞退者が少ないのか、企業の追加採用募集の規模が小さい。各企業が採用枠を十分に満たしているとは考えにくいことから、円安や物価高騰の影響を様子見している状況がうかがえる。企業の採用動向からは、景気の変動がみえづらくなっている。
▲	職業安定所 (職員)	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> ・円安の影響に加えて、ありとあらゆる物が値上がりしていること、賃金を引き上げるような動きもみられないことから、雇用環境はやや悪くなっている。ウクライナ情勢の長期化もマイナスである。
×	*	*	*